

木質構造の プロフェッショナル

木構造家・實成康治

朝倉幸子◎TH-1

illustration:Taco

■『中規模木造構造設計の実務マニュアル』出版

岡山県津山市で生を受けたのが1971年。国立津山工業高等専門学校で機械工学科を卒業した。大学工学部と同程度の専門知識、技術を学ぶ学校だ。創造力と思考力を養う学習と銘打っているのは、成績優秀で卒業した木のプロフェッショナル木構造家の實成康治さんが証明している。

卒業後、ニュージーランドで1年間放浪した後スキー板をつくっている会社に就職したのは、趣味と実益を考えてのことなのかはご想像にお任せ。この会社の機能開発部門で真剣にスキー板の開発に取り組み、仲間とスキーマーカーを立ち上げたほどの力をつけた。

一直線にしたい仕事を選んできたが、自分でも「何を思ったのか」2001年に東京理科大学第二部建築学科に入学して建築を学ぶ。意匠設計を目標にしたが、卒業後は縁あって「銘建工業」に入社した。工事担当から始まり、施工図を描きボルトの積算も手拾いでこなし、現場に精通した。その後、構造設計担当となって自らいう「師匠を持たない叩き上げ木構造家」が生まれた。

■ウッド・ハブ合同会社

中大規模木造建築が、補助金に頼らず普及することを目指すには中大規模に対応したプレカットできる接合金物の開発しかないとの思いからだ。CLT業界を制している会社を辞して、接合金物の製作、販売を行う「タツミ」に転職した。木構造と機械を知っている自分ならできのでは、いややるしかないだろう、高専での専攻が機械工学であったことがここで活かした。指定性能評価機関での評価も取り、特許を取得した。が、思った程の普及、展開はなかったという。特許料は小遣い程度にしかならず。

手本にしてもらえる木構造を自分でやろうと決めて、3年後にウッド・ハブ合同会社を設立。新潟県



三条市で2014年3月に閉校した小学校をコンバージョンした「三条ものづくり学校」を創業の地とした。現在は、中大規模木造建築の構造設計や接合金物の開発コンサルティングを行っている。

■集おう！「木構造テラス」

「壊れることがわからない人には構造設計ができない」と語る實成さん。木質構造の設計を目指す人に、木造の本質を体験して勉強してもらいたいと思案し「木構造テラス」を立ち上げ、セミナーや見学会で勉強の場を提供し始める。

そして、2017年には「一般社団法人木質構造の設計情報を共有する会」と法人格を取得するに至ったのです。2022年の5月に新木場タワーで構造家・金箱温春さんに、ハイブリッドを活用した構造設計の講演をしてもらうなど活動の幅が広がってきています。

「スパン10mの集会所の設計に木造でトライする」といった木質構造の初学者に向けてのサポートになる本の出版がしたいと思い続けた實成さんは、建築技術を訪ねて覇志堂に相談する。合理的な木質構造の普及のためにと熱く語る姿と気負わない笑顔に、騙されて気持ちよく乗った社長の覇志堂なのでした。3年後の2021年に『中規模木造構造設計の実務マニュアル』（建築技術）に漕ぎ着くことができました。

継続的にコミュニケーションをとり学び合える「場」が木構造テラスの在り方だ。実務マニュアルのあとがきには實成さんの想いが的確に書かれているので、ご一読あれ。趣味はもちろんスキーで2,000m級の雪山での山スキーである。素晴らしい絶景を楽しみながら、木構造テラスを社会のためにどのように発展させようかと思案するのが木構造家の流儀だ。